



## ソフトウェア アップグレード

---

[ソフトウェアアップグレード] オプションを使用すると、次のようなインストールとアップグレードを実行できます。

- インストール/アップグレード: アプリケーションソフトウェアのアップグレード、Cisco Unified CallManager ロケールインストーラとダイヤルプランのインストール、およびデバイスバック、電話機のファームウェアロード、その他の COP ファイルのアップロードとインストールを行う場合に、このオプションを使用します。
- TFTP サーバファイルのアップロード: 電話機が使用するさまざまなデバイスファイルを TFTP サーバにアップロードする場合に、このオプションを使用します。アップロード可能な TFTP サーバファイルには、カスタム呼出音、コールバック トーン、および電話機の背景画像などがあります。

## ソフトウェアのアップグレードとインストール

[ソフトウェアアップグレード] ウィンドウでは、ローカル ソースまたはリモート ソースから Cisco Unified Communications Operating System ソフトウェアをアップグレードできます。

問題が発生した場合は、ソフトウェア アップグレード プロセスでアップグレードを取り消すこともできます。アップグレード用のソフトウェアをアクティブでないパーティションにインストールし、システムを再起動して新しいバージョンのソフトウェアに切り替えます。このプロセスの実行中に、アップグレードされたソフトウェアがアクティブなパーティションになり、現在のソフトウェアがアクティブでないパーティションになります。設定情報は、アクティブなパーティションにあるアップグレードしたバージョンの方に自動的に移行されます。

何らかの理由でアップグレードを取り消す場合は、システムを再起動し、前のバージョンのソフトウェアがインストールされているアクティブでないパーティションに切り替えることができます。ただし、この場合、ソフトウェアのアップグレード以降に変更した設定情報は失われます。

Cisco Unified CallManager バージョン 5.0(4) 以降、CAPF では証明書とキーの管理に Certificate Manager Infrastructure が使用されています。このため、バージョン 5.0(4) にアップグレードすると、CAPF のキーと証明書は自動的に再作成されます。その後 CTL Client アプリケーションを再実行し、CTL ファイルをアップグレードする必要があります。Cisco Unified CallManager で CAPF を使用方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

### ローカル ソースから

ローカル ディスク ドライブに挿入された CD または DVD からソフトウェアをインストールし、アップグレードプロセスを開始することができます。



(注)

アップグレードプロセスを開始する前に、必ずシステム データのバックアップを行ってください。詳細については、『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

CD または DVD からソフトウェアをインストールまたはアップグレードするには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ 1** アップグレード ファイルをダウンロードする場合は、次の手順を実行して CD または DVD を作成します。

- a. 必要なアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードします。



(注)

システムが読み取れなくなるおそれがあるため、アップグレード ファイルを unzip または untar しないでください。

- b. アップグレード ファイルを書き込み可能な CD または DVD にコピーします。

**ステップ 2** コピーした CD または DVD を、アップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに挿入します。



(注) アップグレード ファイルによっては、サイズが大きいため CD に書き込みきれず、DVD が必要になる場合があります。

**ステップ 3** [ソフトウェアアップグレード] > [インストール/アップグレード] を選択します。

**ステップ 4** ソフトウェアのソース場所として、**DVD/CD** を選択します。

**ステップ 5** パス ファイルを CD または DVD 上のサブディレクトリに焼いた場合は、そのパスを [ディレクトリ (Directory)、署名付きまたは未署名のファイル] フィールドに入力します。

**ステップ 6** アップグレードプロセスを続行するには、[次へ] をクリックします。

**ステップ 7** インストールするアップグレードバージョンを選択し、[次へ] をクリックします。

**ステップ 8** 次のウィンドウで、送信されるファイル名やメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。

ダウンロードが終了すると、[チェックサム (Checksum)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 9** このチェックサムの値と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。

**注意**

アップグレード ファイルの信頼性と安全性が保証されるためには、これら 2 つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサムの値が一致しない場合は、最新版のアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

**ステップ 10** チェックサムが一致することを確認したら、[次へ] をクリックしてソフトウェア アップグレードを続行します。

[警告] ウィンドウに現在のソフトウェア バージョンとアップグレードするソフトウェア バージョンが表示されます。

**ステップ 11** ソフトウェア アップグレードを続行するには、[次へ] をクリックします。

[インストール後のオプション] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 12** アップグレード ソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするかどうかを選択します。

- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするには、[アップグレードされたパーティションをリブート] を選択します。
- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリブートするには、[アップグレード後にリブートしない] を選択します。

**ステップ 13** [アップグレード] をクリックします。

[アップグレードステータス] ウィンドウが表示され、アップグレード ログが表示されます。

**ステップ 14** インストールが完了したら、[終了] をクリックします。

**ステップ 15** システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[再起動] > [バージョンの切り替え] を選択します。

[ソフトウェアバージョンの切り替え] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 16** ソフトウェア バージョンを切り替えてシステムを再起動するには、[バージョンの切り替え] をクリックします。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

## リモート ソースから

ネットワーク ドライブまたはリモート サーバからソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。



(注)

アップグレード プロセスを開始する前に、必ずシステム データのバックアップを行ってください。詳細については、『*Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** [ソフトウェアアップグレード] > [インストール/アップグレード] を選択します。

**ステップ 2** ソフトウェアのソース場所として、[リモートファイルシステム] を選択します。

**ステップ 3** 必要に応じて、ソフトウェア アップグレードのディレクトリ名を入力します。

アップグレード ファイルが Linux または Unix サーバ上にある場合は、指定するディレクトリ パスの先頭にスラッシュを入力する必要があります。たとえば、アップグレード ファイルが patches ディレクトリにある場合は、/patches と入力する必要があります。アップグレード ファイルが Windows サーバ上にある場合は、システム管理者が適切なディレクトリ パスであることを確認します。

**ステップ 4** 下の表の説明に従って、必要なアップグレード情報を入力します。

フィールド	説明
リモート サーバ (Remote Server)	ファイルのダウンロード元のリモート サーバのホスト名または IP アドレス。
リモート ユーザ (Remote User)	リモート サーバに設定されているユーザの名前。
リモート パスワード (Remote Password)	リモート サーバのこのユーザに設定されているパスワード。
転送プロトコル (Transfer Protocol)	sftp または ftp を選択します。



(注) [リモートファイルシステム] を選択し、リモート サーバの設定フィールドを有効にする必要があります。

**ステップ 5** [次へ] をクリックします。

システムが使用可能なアップグレードをチェックします。

**ステップ 6** インストールするアップグレードまたはオプションを選択し、[次へ] をクリックします。

**ステップ 7** 次のウィンドウで、送信されるファイル名やメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。

ダウンロードが終了すると、[チェックサム (Checksum)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 8** このチェックサムの値と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。



**注意**

アップグレード ファイルの信頼性と保水性が保証されるためには、これら 2 つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサムの値が一致しない場合は、最新版のアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

**ステップ 9** チェックサムが一致することを確認したら、[次へ] をクリックしてソフトウェア アップグレードを続行します。

[警告] ウィンドウに現在のソフトウェア バージョンとアップグレードするソフトウェア バージョンが表示されます。

**ステップ 10** ソフトウェア アップグレードを続行するには、[次へ] をクリックします。

[インストール後のオプション] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 11** アップグレード ソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするかどうかを選択します。

- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするには、[アップグレードされたパーティションをリブート] を選択します。
- アップグレード後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリブートするには、[アップグレード後にリブートしない] を選択します。

**ステップ 12** [アップグレード] をクリックします。

[アップグレードステータス] ウィンドウが表示され、アップグレード ログが表示されます。

**ステップ 13** インストールが完了したら、[終了] をクリックします。

**ステップ 14** システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[再起動] > [バージョンの切り替え] を選択します。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

## ロケールのインストール

シスコは、ロケール固有のバージョンの Cisco Unified CallManager ロケール インストーラを [www.cisco.com](http://www.cisco.com) で提供しています。このロケール インストーラはシステム管理者がインストールするもので、これを使用すると、ユーザがサポートされているインターフェイスを使用するときに、選択した翻訳済みテキストまたはトーン（使用可能な場合）を表示 / 受信することができます。

### ユーザ ロケール

ユーザ ロケール ファイルは、電話機表示用の翻訳済みテキストとボイス プロンプト（使用可能な場合）、ユーザ アプリケーション、およびユーザが選択したロケールの Web ページを提供します。ユーザ専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

### ネットワーク ロケール

ネットワーク ロケール ファイルは、国固有の電話機トーンやゲートウェイ トーン（使用可能な場合）を提供します。ネットワーク専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

1 つのロケール インストーラに複数のネットワーク ロケールが組み合わされている場合があります。



**(注)** Cisco Media Convergence Server (MCS) またはシスコ承認の、顧客が提供するサーバは、複数のロケールをサポートできます。複数のロケール インストーラをインストールすることにより、ユーザは複数のロケールから選択できるようになります。

クラスタ内のすべてのサーバをリブートしないと、変更は有効になりません。クラスタ内のすべてのサーバへのインストールが終了するまで、サーバをリブートしないように強くお勧めします。通常の業務時間後にサーバをリブートして、コール処理の中断を最小限にとどめてください。

## ロケールのインストール

ロケール ファイルは、この章の初めの方で説明したソフトウェア アップグレードのインストール方法と同じ手順を使用して、ローカル ソースまたはリモート ソースからインストールできます。この手順の詳細については、[P.7-2 の「ソフトウェアのアップグレードとインストール」](#) を参照してください。



**(注)** 新しくインストールしたロケールをアクティブにするには、サーバを再起動する必要があります。

インストールする必要があるロケール ファイルについては、[P.7-7 の「ロケール ファイル」](#) を参照してください。複数のロケールをインストールしてから、サーバを再起動できます。

## ロケール ファイル

ロケールをインストールする場合、次のファイルを両方ともインストールする必要があります。

- ユーザ ロケール ファイル：特定の言語と国に関する言語情報が格納されています。ファイル名の表記は、次のとおりです。

`cm-locale-language-country-version.cop`

- 複合ネットワーク ロケール ファイル：すべての国に対応した、さまざまなネットワーク項目（電話機のトーン、アナウンサー、およびゲートウェイ トーンなど）の国固有のファイルが格納されています。複合ネットワーク ロケール ファイル名の表記は、次のとおりです。

`cm-locale-combinednetworklocale-version.cop`

## エラー メッセージ

ロケール インストーラをアクティブ化するときに発生する可能性のあるエラー メッセージの説明については、表 7-1 を参照してください。エラーが発生した場合は、インストール ログにあるエラー メッセージを表示できます。

表 7-1 ロケール インストーラのエラー メッセージと説明

メッセージ	説明
[LOCALE] File not found: <language>_<country>_user_locale.csv, the user locale has not been added to the database.	データベースに追加するユーザ ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] File not found: <country>_network_locale.csv, the network locale has not been added to the database.	データベースに追加するネットワーク ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] CallManager CSV file installer installdb is not present or not executable	installdb と呼ばれる Cisco Unified CallManager アプリケーションが存在する必要があります。このアプリケーションは、CSV ファイルに格納されている情報を読み取り、この情報を適切に Cisco Unified CallManager データベースに適用します。このアプリケーションが見つからない場合、アプリケーションが Cisco Unified CallManager にインストールされていない（可能性は非常に低い）、削除された（可能性あり）、またはサーバに Cisco Unified CallManager がインストールされていない（可能性が最も高い）ことが考えられます。データベースに適切なレコードが格納されていないとロケールは機能しないため、ロケールのインストールは中止されます。

表 7-1 ロケール インストーラのエラー メッセージと説明 (続き)

メッセージ	説明
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/ com/cisco/ipma/client/locales/maDialogs_<ll>_< CC>.properties.Checksum.	このエラーは、システムがチェックサム ファイル の作成に失敗した場合に発生します。原因として は、Java 実行ファイルの /usr/local/thirdparty/java/j2sdk/jre/bin/java が存在し ない、Java アーカイブ ファイルの /usr/local/cm/jar/cmutil.jar が存在しないか損傷して いる、Java クラスの com.cisco.ccm.util.Zipper が存 在しないか損傷していることが考えられます。こ れらのエラーが発生した場合でも、ロケールは正 常に機能します。ただし、Cisco Unified CallManager Assistant ではローカライズされた Cisco Unified CallManager Assistant ファイルの変更は検出されま せん。
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/ com/cisco/ipma/client/locales/maMessages_<ll>_< <CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/ com/cisco/ipma/client/locales/maGlobalUI_<ll>_< <CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/ LocaleMasterVersion.txt.Checksum.	
[LOCALE] Could not find /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/ LocaleMasterVersion.txt in order to update Unified CM Assistant locale information.	このエラーは、適切な場所にファイルが見つから ない場合に発生します。原因としては、ビルドブ ロセスのエラーの可能性がります。
[LOCALE] Addition of <RPM-file-name> to the Cisco Unified CallManager database has failed!	このエラーは、ロケールのインストール時に発生 した何らかの失敗が累積されたために発生し、終 了条件を示しています。



## TFTP サーバファイルのアップロード

[TFTP サーバファイルのアップロード] オプションを使用すると、電話機が使用するさまざまなファイルをサーバにアップロードできます。アップロード可能なファイルには、カスタム呼出音、コールバック トーン、および背景画像などがあります。このオプションは、接続先の特定のサーバにのみファイルをアップロードするもので、クラスタ内の他のノードはアップグレードされません。

デフォルトでは、ファイルは **tftp** ディレクトリにアップロードされます。**tftp** ディレクトリのサブディレクトリにもファイルをアップロードできます。

クラスタ内に 2 台の Cisco TFTP サーバが設定されている場合、両方のサーバで次の手順を実行する必要があります。この手順を実行しても、ファイルがすべてのサーバに配信されるわけではなく、クラスタ内の 2 台の Cisco TFTP サーバにも配信されません。

TFTP サーバファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[ソフトウェア アップグレード] > [TFTP サーバファイルのアップロード] を選択します。

[TFTP サーバファイルのアップロード (TFTP Server File Upload)] ウィンドウが表示され、現在アップロードされているファイルの一覧が表示されます。

**ステップ 2** ファイルをアップロードするには、[参照] をクリックし、アップロードするファイルを選択します。

**ステップ 3** ファイルを **tftp** ディレクトリのサブディレクトリにアップロードするには、[ファイルがアップロードされる **tftp** ディレクトリのサブディレクトリ (Subdirectory of the **tftp** directory where file will be uploaded)] フィールドにサブディレクトリを入力します。

**ステップ 4** アップロードを開始するには、[ファイルのアップロード] をクリックします。

ファイルのアップロードが成功すると、[ステータス (Status)] 領域に表示されます。

**ステップ 5** ファイルをアップロードしたら、Cisco TFTP サービスを再起動します。



(注) 複数のファイルをアップロードする場合は、すべてのファイルをアップロードした後に Cisco TFTP サービスを 1 度だけ再起動してください。

サービスの再起動の詳細については、『Cisco Unified CallManager サービスアビリティ アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注) TFTP ディレクトリに存在するファイルを修正する場合は、CLI コマンドの **file list tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルを表示し、**file get tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルをコピーします。詳細については、付録 A 「コマンドライン インターフェイス」を参照してください。

